

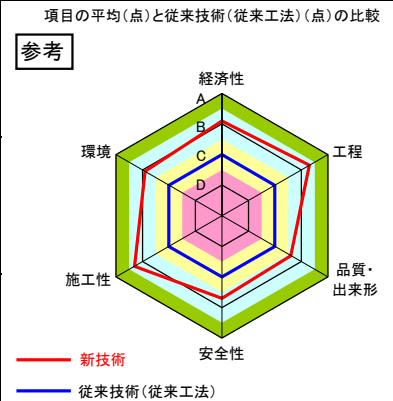
# 活用効果評価結果

令和7年度

北陸地方整備局 / 新技術活用評価会議

NEITS 情報	開発目標	省力化、経済性の向上、安全性の向上				
	新技術登録番号	KT-190075-VE	区分	工法	有用な技術の位置づけ	-
	分類	砂防工 - 水路工				
	新技術名	Zスリット型堰堤工法 (土石流・流木を捕捉するための鋼製透過型堰堤(無流水溪流にも対応可能))				
	比較する従来技術(従来工法)	鋼管骨組構造形式による透過型堰堤				
	新技術の概要及び特徴	本工法は、鋼管を素のまま活用した直立鋼管柱と底版コンクリートとからなる鋼製透過型堰堤。従来は鋼管骨組構造形式による透過型堰堤で対応していた。本工法の活用により、鋼材加工度を大幅に減らせるため、工期短縮と経済性向上が図れる。				

活用効果評価	所見	本技術では、特殊な技術が必要なく作業が容易であるため、施工性が向上し、工程の短縮が図られる。また、鋼管柱を基礎管に差し込んで組み立てる単純な構造であるため、品質・出来形の管理が容易になる。さらに、鋼材加工費及び労務費の縮減により、経済性が向上する。				
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用効果調査の結果、活用現場の違いによる大きな差異は認められないため、情報種別記号を「-VE」とし、今後の活用効果調査、事後評価は実施しないものとする。				
	留意事項	求められる性能は施設毎に異なるので、活用の際には、登録情報に記載されている適用基準に基づき、(1)設計条件、(2)基本形状の設定、(3)安定検討(滑動、転倒、地盤支持力)、(4)角形鋼管柱の構造検討、(5)基礎部の構造検討、(6)礫衝突時の安定性照査等、本技術の適応について確認が必要。				
	当該技術における改良点及び要望	特になし。				



参考	活用効果調査結果	対象工事	1	堰堤管理用道路工事	従来技術: 鋼管骨組構造形式による透過型堰堤。	発注者指定型
			2	川床固工工事	従来技術: 鋼管骨組構造形式による透過型堰堤。	発注者指定型
			3	ダム堤体建設工事	従来技術: 鋼管骨組構造形式による透過型堰堤。	施工者選定型(契約後提案)
			4	砂防堰堤工事	従来技術: 鋼管骨組構造形式による透過型堰堤。	施工者選定型(契約後提案)
			5	堰堤改良外工事	従来技術: 鋼管骨組構造形式による透過型堰堤。	発注者指定型

参考	活用効果調査結果	ケース番号および年度	1	2	3	4	5							項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)							
		項目	R2	R5	R6	R6	R7															
		施工時評価	経済性	A	B	C	B	A								B	C					
			工程	A	B	B	B	A								B	C					
			品質・出来形	B	C	B	C	B								B	C					
			安全性	A	B	C	C	B								B	C					
			施工性	A	B	B	B	A								B	C					
			環境	A	B	B	C	B								B	C					
		その他	-	B	-	-	-															
		総合評価点	B	B	B	B	A								B	C						
今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後是非活用したい		活用を検討したい		場合によっては活用することもある		技術の改良を強く望む		優位性における判定													
	40% [4件/10件]		60% [6件/10件]		0% [0件/10件]		0% [0件/10件]		<table border="1"> <tr><td>A</td><td>従来技術より極めて優れる</td></tr> <tr><td>B</td><td>従来技術より優れる</td></tr> <tr><td>C</td><td>従来技術と同等</td></tr> <tr><td>D</td><td>従来技術より劣る</td></tr> </table>						A	従来技術より極めて優れる	B	従来技術より優れる	C	従来技術と同等	D	従来技術より劣る
A	従来技術より極めて優れる																					
B	従来技術より優れる																					
C	従来技術と同等																					
D	従来技術より劣る																					

追跡調査の必要性	無し					備考
追跡調査	無し					